

(↓邦文題目: MSゴシック, 12 pt, Boldにしない, 用紙上端より41 mmあける)

## 第44回日本熱物性シンポジウム 講演論文執筆要綱

(↓英文題目: Times New Roman, 11 pt, Bold, 1行あける)

### MANUSCRIPT PREPARATION FOR THE 44TH JAPAN SYMPOSIUM ON THERMOPHYSICAL PROPERTIES

(↓著者名(所属略称), 講演者に○印, MS明朝, 10 pt, 1行あける)

○千葉太郎(日大) 津田沼花子(日大院)

○Taro CHIBA\* and Hanako TSUDANUMA\*\*

\* Department of Mechanical Engineering, Nihon University, Narashino, 274-0072, Japan

\*\* Graduate School of Science and Engineering, Nihon University, Narashino, 274-0072, Japan

Corresponding author: Taro Chiba, E-mail: \*\*\*\*\*@g.nihon-u.ac.jp

(↑Times New Roman, 10 pt, 1行あける)

Abstract should be written in single-spaced style using 9 point Times New Roman. The length of the abstract should be approximately 15 - 20 lines. -----

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

(2行あける)

#### 1. 緒言 (←MSゴシック, 10 pt, Boldにしない)

本執筆要綱は, 第44回日本熱物性シンポジウムの講演原稿に適用するものである. 本要綱で指定のないものについては, 会誌「熱物性」の原稿執筆の手引きによる.

(↑本文, MS明朝, 9 pt)

#### 2. 原稿

##### 2.1 ファイルフォーマット (←MSゴシック, 9 pt)

原稿は本執筆要綱の書式に従い作成し, Adobe PDFフォーマットで提出する. 原則, これ以外のファイル形式は受理しない. なお, 原稿をMS-Wordで作成する場合は, シンポジウムホームページよりサンプルファイル (MS-Word) をダウンロードして上書きして作成することを推奨する. 新たにファイルを作成する場合は以下に示す書式に設定する.

##### 2.2 用紙およびフォント

用紙・頁数はA4版用紙, 3頁とし, 余白を以下のように設定する.

上余白: 21 mm, 下余白: 23 mm

左余白: 20 mm, 右余白: 20 mm

本文は2段組とし, 段間隔は8 mm (段幅81 mm), 25文字×52行になるようにする.

原稿の標準フォントは「和文: 明朝体, 英文: Times New Roman, Symbol」, もしくは, 上記のフォントに準じたフ

ォントとする.

特に指定がない限り和文フォントは9 pt, 英文フォントは10 ptで記述する.

##### 2.3 書式設定方法 (MS-Wordの場合)

「ファイル→ページ設定」メニューを選び, 「設定対象」を文書全体にする. 「余白」タブを開き, 本執筆要綱に従って余白を設定する (上21 mm, 下23 mm, 左20 mm, 右20 mm). 「文字数と行数」タブを開き, 「フォントの設定」をクリックする. 和文・英文フォントをそれぞれ「MS-明朝」・「Times New Roman」にし, 文字サイズを9 ptに設定する. 次に行数を52行に設定する.

#### 3. タイトルページ

##### 3.1 論文題目

第1ページの用紙上端に41 mm (上余白からは20 mm) の空白をあけ, MSゴシック12 pt, 中央揃えで邦文題目を記入する. 1行あけて英文題目をTimes New Roman, 11 pt, 大文字 (Bold), 中央揃えで記入する.

##### 3.2 著者名・連絡先

英文題目の下1行あけて, 明朝体10 pt, 中央揃えで著者名を記入する. 氏名の後に所属機関の略称を括弧でくくって記載する. 複数著者の場合は全角スペースで区切る. 2行にまたがる場合は, シングルスペースで改行する. 講演者名の前に○印をつける.

改行し、英文による著者名をTimes New Roman 10 pt, 中央揃えで記入する。姓(Family Name)は、大文字のみを用いて表示する。連名の場合、講演者名の前に○印をつけ、各著者名はカンマ(,)で区切る。次の行に英文による所属、住所、その下に代表者氏名および電子メールアドレスを記入する。

### 3.3 英文アブストラクト

1行あけて英文アブストラクトを約20行, Times New Roman 9 pt, シングルスペースで記入する。

## 4. 本文

### 4.1 見出し

見出しは、「2.○○○」(節)、「2.1△△△」(項)のように通し番号をつけ、左揃え、インデントなし、それぞれMSゴシック 10 pt, MSゴシック 9 ptで記入する。節の見出しは、前の本文の後に1行あける。

### 4.2 数式

数式は以下の例のように、中央揃え、10 ptで記入し。式番号を右揃えで記入する。上付き・下付き文字は6 ptとする。数式はMath Typeなどで作成するのが望ましい。

$$\mu' = \mu_0 / (1 - \alpha p_v) \quad (1)$$

式中では、分数はなるべくa/bのような表記にする。本文中で式を参照する場合は、式(1)のように記述する。

### 4.3 図表

図表は必ず本文中で参照し、該当箇所の近くに配置する。本文中で図表を引用する場合には、図1や表1のように記述する。

Table 1 Empirical equation of suspensions

Author	Year	Expression
Hatschek	1911	$\mu_s = \frac{\mu_0}{1 - p_v^{1/3}}$
Taylor	1932	$\mu_s = \mu_v / \mu_0 = 1 + f p_v$

図は見やすく大きめのものを用意し、グレースケールやカラー画像(文字)は印刷が不鮮明になるのをなるべく使用しない。印刷用PDFとは別に、CD-ROM用のカラー画像などを用いたPDFを別途提出しても良い。

図表中の文字・語句はすべて英語で記入し、本文の文字と同程度の大きさにする。図および表のキャプションは9 ptの英文で記入する。説明句が複数行にまたがる場合はシングルスペースで改行する。図1および表1に図表記載の例を示す。

## 5. 記号

記号は、本文終了後1行あけ、10 ptのボールド体で**NOMENCLATURE**と標記して改行し、10 pt文字、シン

グルスペースで記号説明を英文で列記する。

用紙に余裕がない場合は省略してもかまわないが、その場合は必ず本文中で記号・単位を説明する。参考例を本執筆要綱の後に示す。

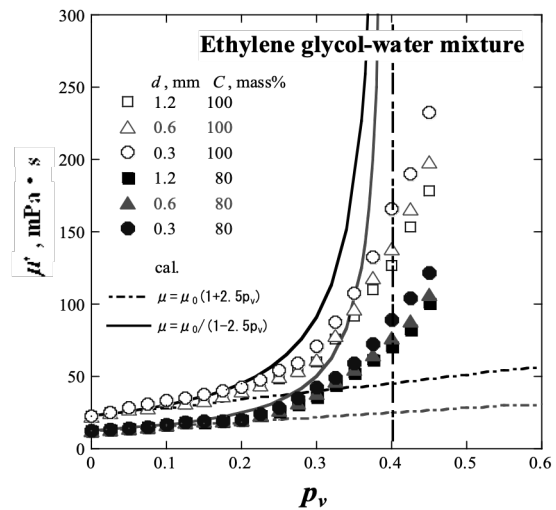


Fig. 1 Relationship between the effective viscosity and the fraction of solid phase.

## 6. 参考文献

本文中で文献を引用する際は、[1], [2,3], または[4-6]のように通し番号を付けて引用する。

参考文献リストは記号表の後に1行あけ、10 ptボールド体で**REFERENCE(S)**と標記して改行し、番号順にシングルスペースで列記する。

和文の文献は英訳して記載する。文献の著者が複数の場合は、著者全員の名を記載する。著者名の中のandは省略してもよい。できれば論文題目も記載するのが望ましい。雑誌名を省略標記するときは、Chemical Abstract誌による(またはISO 833に準拠する)こと。

本執筆要綱の最後に、雑誌[1], 書籍[2], 予稿集[3]の場合の参考文献リストの例を示す。

## NOMENCLATURE

- D: diameter, mm
- C: concentration, %
- $\mu'$ : effective viscosity, Pa·s
- $p_v$ : solid phase volume fraction

## REFERENCES

- [1] A.Einstein, "A New Determination of Molecular Dimensions", Ann. Phys.,19(1906), 289.
- [2] S.E.Charm, G.S.Kurland, "Blood Rheology in Cardiovascular Fluid Dynamics", Vol.2, Chap.15, Academic Press, London (1972), 157-203.
- [3] T.Yokohama, H.Fukuzawa, Proc.31<sup>st</sup> Jpn. Symp.Thermophys. Prop., Fukuoka (2010), A233.